事例研究・研究レポート

「特集にあたって」にかえて

法政大学　若山　邦紘

皆さん，「オペレーションズ・リサーチ」はOR学会が創刊した学会誌だと思ってはいませんか．実は，わが日本OR学会創立の1年前，昭和31年6月（1956年）に創刊されているのです．わが国の産業界にIE，品質管理，ORといった科学的管理法の導入と教育・普及を手がけた㈶日本科学技術連盟（日科技連）が会員会社に対するORの啓蒙と普及を目的として編集・発行した雑誌だったのです．その当時はOR学会の創生期で，昭和30年11月に関西に設立された経営科学協会と，日本OR学会設立のための打ち合わせ会が開かれたということです．昭和32年6月に日本OR学会が創立され，日本オペレーションズ・リサーチ学会誌として「経営科学」が創刊されました．すでにオペレーションズ・リサーチという名の雑誌が日科技連から刊行されていたことと，経営科学協会の名を残そうという意図から，このような名称のOR学会誌が誕生したと聞いています．欧文誌「JORSJ」が創刊されたのは翌昭和33年です．この時から和文論文誌「経営科学」と，欧文論文誌「JORSJ」の2本建てで昭和50年まで続きました．

昭和50年（1975年）に日本で第7回IFORS国際会議が開催されることになり，それにあわせて「OR事典」の編纂が計画されました．その発行を日科技連に依頼したのですが，その折に「オペレーションズ・リサーチ」のOR学会への移管が話し合われました．OR誌の編集にあたっては，それまでもOR学会の主要メンバーが中心でしたので格調が高く，多くのOR学会員が定期購読をしていました．

昭和51年1月（1976年），OR誌はOR学会の機関誌として生まれ変わり，21巻から新シリーズとしてOR誌の歴史を引き継ぐことになったのです．OR誌の発売元が現在も日科技連になっているのはこのような経緯からです．この年から「経営科学」は廃刊され，OR学会の論文誌は「JORSJ」に統合されることになり，月刊機関誌「オペレーションズ・リサーチ」，季刊論文誌「JORSJ」の2本建てになりました．会員数2000名そこそこの学会で月刊誌を発行してゆくのは並大抵のことではありません．しかし，その基礎を築き上げたのは初代OR誌編集委員長の森村英典前会長はじめ，この時代の編集委員会のメンバーの皆さんです．OR学会が小さな躯でも大きな仕事をやり遂げてきたのは，ボランタリー精神の豊かな会員が協力し合ったからに違いありません．一新された表紙のガウスの肖像のデザインは，若くして亡くなられたナイスガイ奥平耕造先生のアイディアでした．現在の表紙は高井英道現副会長の作品です．

OR誌で特集を組むのは日科技連時代からの名残りで，それが現在も続いているわけですが，二度だけ特定のテーマ特集ではなく，事例研究特集という号がありました．昭和59年10月と60年6月（1984，1985年）です．これは研究発表会で発表された事例研究を集めたものでした．毎号1，2編紹介されてきた事例研究の中から事例研究奨励賞として表彰されるような質の高いものが次々と掲載されるようになり，昭和62年（1987年）から査読審査付きの論文として投稿してもらうことになりました．これは，からくり堂主人として読者の記憶にも新しい柳井浩元編集委員長が，論文誌編集委員長と相談のうえ理事会に諮り，ここで採択される論文に学術論文としての評価を与える道を開いたものです．

昨年来，投稿論文の数が増えてきました．小生が委員長を引き継いだ平成3年5月以降，10数件の論文の投稿がありました．不採択になった論文も相当数ありますが，採択された論文はできるだけ早い時期に掲載しようという考えから，編集委員会では38巻5号に採択された投稿論文（事例研究5件，研究レポート1件）をまとめて掲載することに決めました．今後採択論文の数が増えれば，必要に応じて本号のようなケースもあろうかと思います．実学としてのORの事例・研究の成果を積極的にOR誌に投稿される企業や実務家が，もっといろいろな業種に増えることを願ってやみませんまた．

また，そろそろ表紙も替えようかと相談しています．デザインは公募にしたいと考えていますので，その節は従来に負けない作品をお寄せください．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．